

石田三成の忍城水攻め

天正18年(1590)2月、豊臣秀吉は小田原の北条氏を攻めるため、関東に大軍を派遣しました。対する北条氏は小田原城に籠城して、豊臣軍を迎え撃ちました。北条氏の配下にあった忍城主成田氏長は小田原城に呼ばれたため、忍城は一族や家臣ら

が守り、氏長の叔父泰季が城代を務めました。しかし、籠城の最中に急死したため、息子の長親が城代となりました。



石田堤

豊臣軍は関東の北と南から北条方の諸城を攻略していき、5月の初旬には忍城のほか、鉢形城・岩付城・小田原城・八王子城・津久井城を残すのみとなりました。秀吉は石田三成に二万の軍勢を率いて、忍城を攻めるように命じました。6月初旬に着陣した三成は水攻めの準備に取り掛かり、城の周囲に堤を築きました。この堤は石田堤と呼ばれ、市内堤根などに現存しています。

忍城攻めに対する秀吉の指示は一貫して「水攻めを行え」というものでした。忍城に攻め込んで戦功をあげた武将にも、水攻めをしっかりとやるように命じました。小田原城が開城し、北条方の城が忍城だけになっても、秀吉は上杉景勝らに水攻めの堤防工事に加わり、自分も堤を見物に行くから工事を油断なく行なうよう命じました。

このように最後まで水攻めに抵抗した忍城ですが、開城交渉がまとまり7月14日に豊臣軍に引き渡されました。成田氏一族は忍城を退去し、当主氏長らは秀吉の武将蒲生氏郷に預けられました。しかし、その翌年には下野国烏山城主となり、1年ほどで大名として復活しました。

忍城の開城により関東の戦国時代は終了し、時代は中世から近世へと大きく転換していきました。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)

こぜにちゃんが 行く!

with フラベス

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



すい じょう こう えん 水 城 公 園

すいじょうこうえん おしじょう ほり りょう しょうわ ねん がつ かいえん
水城公園は忍城のお堀を利用して昭和39年4月に開園した、
けんない れきし こうえん しゅうい きくら う はなみ
県内でも歴史ある公園です。周囲に桜が植えられていて、お花見
の季節にもなるとたくさんのお花見客でにぎわう市民広場や、釣り
場として人気のしのぶ池、池一面にホテイアオイの花が咲くあ
いの池などがあって、市民の憩いの場として親しまれているん
ですよ。

そういえばこの間、園内で「飛ぶ宝石」といわれる鳥「カワセ
ミ」を目撃したって情報があつたんだ。園内を散策していると、
もしかしたらカワセミに出会えるかもね。

今月の表紙

5月14日、忍城址で忍城おもてなし甲冑隊は白石戦國武将隊奥州片倉組を迎え、演舞の披露などを行いました。
宮城県白石市の武将、片倉十郎景綱を中心に伊達政宗、真田幸村などが集結した武将隊は、甲冑隊との親睦を深めるために、この日忍城址に初登場。迫真の演舞や地元紹介などのトークショーで観客を盛り上げた武将らは、イベントの最後に撮影会を開き、おもてなしの心で積極的に訪れた方との交流を深めていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をカセットテープに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい大豆インキ